

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 27 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26370642

研究課題名(和文) アラビア語習得における学習動機づけを高める指導方法の策定とその効果に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the Formulation and Effects of Teaching Methods for Raising Learning Motivation in Arabic Language Acquisition

研究代表者

鷲見 朗子 (SUMI, Akiko)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授

研究者番号：20340466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：日本人大学生のアラビア語学習において、学習動機づけを向上させる動機づけアラビア語方略プログラムの策定を行い、その効果を質問紙調査によって実証した。質問紙調査のため、アラビア語学習動機づけ尺度の信頼性と妥当性を確認した。動機づけアラビア語方略プログラムとなるアラビア語集中講座合宿を2度に亘り実施し、講座参加者から得られたデータを統計的に分析した。その結果、講座前に比べ講座後で、参加者のアラビア語学習への内発的動機づけが増し、無動機づけが低下したことが実証された。一方で、外発的動機づけに変化は認められなかった。これはアラビア語学習に対する内発的動機づけを高める講座による効果を支持するものであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の遂行によって、アラビア語学習者の学習動機づけを高めるアラビア語方略プログラムすなわち指導方法・テクニックが提示され、その効果が理論的に実証されたことで、日本のアラビア語教育研究のレベル向上に資することができた。動機づけを高める方略とは、単に動機づけを高める目的だけでなく、アラビア語学力を高める指導の一環としても行われなければならないことから、研究の場のみならず教育現場にも役立つ研究となった。学習者のコミュニケーション力を育成する、意欲的かつ効果的なアラビア語習得が可能になれば、日本社会がアラブ世界の理解とその文化への関心を深めることにつながると考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, an Arabic language teaching program was formulated and conducted to elevate the intrinsic motivation of Arabic learners in Japanese universities. The program's effects were verified by a questionnaire survey. The reliability and validity of the survey's scale of Arabic learning motivation were then confirmed. The program was implemented in an Arabic intensive Camp which was held twice; the questionnaire survey was administered each time to the participants. The results suggest that the intrinsic motivation of the participants increased after their camp training, and their amotivation decreased. Their extrinsic motivation ratings indicated no change.

研究分野：アラビア語教育、アラブ文学

キーワード：外国語 教授法 動機づけ

## 1. 研究開始当初の背景

国内のアラビア語教育研究は、世界には後塵を拝するもののこの10年間に、理論や方法論に基づいた研究が少しずつ発表されている。一方、国外では指導理念、指導法、評価、教材、情報技能を中心に順調な進展を見せている。そんな中、重要であるのに看過されている主題が動機づけ、文化、コミュニケーションである。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、日本の大学生のアラビア語習得における学習動機づけを高める指導方法、いわゆる動機づけ方略の策定とその効果を検証することであった。まず、内発的動機づけを高めるとされる自己決定理論に基づいた3欲求である自律性、有能性、関係性の欲求を満たし、現在アラビア語教育の中で重要とされる、文化とコミュニケーションに焦点をおいた指導方法を策定した。次に、その指導方法を盛り込んだ教育プログラム（動機づけアラビア語方略プログラム）を実施し、実施前後に行う質問紙調査によって学習者の動機づけの変動を測定し、その指導方法が効果的かどうかを検討した。

## 3. 研究の方法

(A)動機づけアラビア語方略プログラム、(B)質問紙調査、(C)ティーチングワークショップ・研究会および海外調査、という3分野の作業を連携させながら、課題を遂行した。(A)は入念な準備を初年度に行い、調査としても方略としても有効なプログラムを2、3年目実施できるように計画した。(A)と連動して行われる(B)については再調整と確認を行った。4、5年目には方略プログラムから得られた指導方法の成果と質問紙調査結果の分析をまとめた。(C)に関しては、(A)と(B)を補強・拡充する目的で全年度にかけて遂行した。

## 4. 研究成果

### (1) 動機づけアラビア語方略プログラム

動機づけアラビア語方略プログラムにあたるアラビア語集中講座合宿を2015年と2016年の夏休みに京都府で各年、6~7日間実施した。多数の応募があったが、参加者は予定通り各年45~50名にしばった。受講者は全国からの大学生約95名(各年45~50名)で3~4段階の能力水準に応じた授業編成をとった。豊富な教育経験を持つネイティブ・スピーカ3~4名(カースィム・ワフバ米ジョージタウン大学教授、アブデル・ラフマーン エル・シャルカーウィー大阪大学特任准教授、シャヒーラ・マフムード・ヤークート カイロ・アメリカン大学アラビア語シニアインストラクターら)およびネイティブに近い日本人アラビア語教師3~4名(大阪大学依田純和講師、大阪大学福田義昭講師、京都大学竹田敏之特任准教授、京都ノートルダム女子大学鷺見朗子教授ら)計7~8名が講師として指導にあたった。講座期間中はアラビア語以外の使用は禁止とした。これによって短期間の講座ながら受講者のコミュニケーション力向上をはかった。講座には自己決定理論に基づいた3欲求である自律性、有能性、関係性の欲求を満たすような学習活動や指導方法を組み込んだ。自律性とは「自らが行動の主体でありたい」という欲求、有能性とは「環境と効果的に関わる力をもちたい」という欲求、関係性とは「他者・社会と関わりたい」という欲求である。すなわち、基本的心理欲求を引き出し、満足する学習条件を提供することで、学習における自律的な動機づけ・行動、適応、満足・幸福感を得るのである。さらに、内発的動機づけの向上を目指し、アラブ文化への興味を引き出す方策もとった。

具体的には、自律性の充足支援として、受講生の意思決定事項・場面をできるだけ設定した。たとえば、スキットの制作、プレゼンテーション、アラビア語作文等の課題トピック、発表の仕方、役割分担などの決定を受講生に任せた。有能性の充足支援として、可能な限り受講生の活動・成果に肯定的評価を与え、奨励と鼓舞を行った。また能力に応じたクラス分けや本人の意思によるクラス変更を許可したほか、夜にはスタディルームを設け、講師が常に待機し質問に答えるなど、学習不安の低減とアラビア語への自信を育む環境を整えた。関係性の充足支援としては、受講者と講師が共同生活を行い、グループによるタレントショーの準備と実施、文化活動(書道、料理、歌、踊り)や屋外活動(バーベキュー、自然散策など)に従事し、交流を深める機会を用意した。

### (2) 質問紙調査

質問紙調査を実施するため、アラビア語学習動機づけ尺度の作成を行った。質問項目は、自己決定理論における動機づけの定義と、同理論に基づいたいくつかの既存尺度の質問項目を参考に作成、吟味した。下位尺度は、自己決定理論における自己決定性の相違を示す調整(regulation)によって、無調整、外的調整、取り入れ的調整、同一化的調整、内発的調整の5つを想定した。質問項目は予備調査を通じて、修正を行った。調査対象者に、こうして作成された質問項目をそれぞれ5段階で評定させた。

収集した調査データを基に、尺度の信頼性と妥当性の確認を行った。まず、探索的因子分析を行ったところ、想定した5因子が認められた。確認的因子分析によって、この5因子構造が確認された。下位尺度毎の修正項目-尺度相関及び信頼性係数は、適切な値が認められた。尺度の妥当性を示す結果として、下位尺度得点間の相関関係には、自己決定理論から予想されたシンプレックス構造がほぼ認められた。さらに、学習満足をはじめとした学習結果との間に認められた相関関係によっても尺度の妥当性は支持された。自己決定理論に基づいた、有用なアラビア語学習動機づけ尺度が開発されたと言える。こうした相関関係は、アラビア語学習者における学習動機づけと学習結果との間に興味深い関係を示唆するものであった。新たな尺度によって、アラビア語学習の実態把握を前進させる可能性をつくり出すことができたと言える。

具体的には、次の4点を質問紙調査によって明らかにした。(1)日本人大学生のアラビア語学習において、上述した自己決定理論の3欲求と文化、コミュニケーション活動を入れたアラビア語学習プログラムが動機づけを高めるのかどうか、(2)もし高めるとすれば、どの欲求、そしてどの学習者要因がより重要な役割を果たすのか、(3)学習者の動機づけと結果変数となる主観的理解度、学習満足感、学習成果満足感、努力感との関連性を明らかにする。また、(4)これらを解明する過程で、動機づけを高めるアラビア語指導方法・テクニックとはどのようなもので、それらをどのような手順で進めていくのか等具体的な手法を提示した。

アラビア語学習の動機づけに対する講座の効果は、講座の前後における受講者の動機づけを比較することで検討された。動機づけの評定には、自己決定理論に基づく、無動機づけから、外発的動機づけ、そして内発的動機づけに対応する5つの調整を測定可能なアラビア語動機づけ尺度(Sumi and Sumi 2014, 2015)が用いられた。2度の講座の参加者95名から得られたデータを統計的に分析した結果、講座の後に、アラビア語学習への内発的動機づけの増加、無動機づけの低減があきらかとなった。一方で、外発的動機づけに変化は認められなかった。これはアラビア語学習に対する内発的動機づけを高める講座による効果を支持するものであった。

また、アラビア語集中講座合宿の参加者を対象に、自己決定理論に基づく3つの基本的心理欲求が、講座に参加したことで、高まったかどうかを明らかにする研究を行った。講座にはこれらの心理欲求である有能性、自律性、関係性の満足感が向上するような内容を盛り込んだ。講座開始前と開始後と比較したところ、これら欲求の満足が高まったことが確認された。このことは講座に組み入れた学習活動や指導方法が有効であり、アラビア語学習者の自律的な動機づけを向上させる方策になりえることが示された。さらに、3欲求とも満足度は向上したが、有能性と自律性の満足度は講座開始前も高かったため、開始後への影響は弱かったといえる。対して関係性の満足度は開始前と開始後の間で独立性が高かった。この結果は、開始前には関係性を育む学習環境が低かったことを提示し、受講生が日頃受けているアラビア語の教育環境では、クラスメイトや教師との関わりが薄かったことが示された。通常のアラビア語授業には今回の集中講座合宿のような環境をとり入れるのは難しい面もあるであろう。だが、関係性をより構築できるような学習活動や指導方法を組み入れていくことは可能だと思われる。ペアによる会話練習、グループ発表などにより、学習教材・活動を通じたコミュニケーションによる対人関係の促進が求められる。

さらに、アラビア語学習の契機、そしてアラブ文化への興味と、学習結果との結び付きを明らかにする目的で、アラビア語集中講座合宿の受講者に対する合宿開始時の質問紙調査から得られたデータを統計解析手法を用いて分析した。分析対象としたデータは受講者84名であった。分析には次の4変数を用いた。(1)自由回答の内容から分類されたアラビア語学習の契機、(2)12項目アラブ文化興味尺度IACS(Sumi and Sumi, 2015)の評定値、(3)主観的成績、学習動機づけ、学習満足感、学習継続意図といった学習結果の尺度(Sumi and Sumi, 2016など)の評定値、(4)受講開始時における4段階のアラビア語能力水準である。統計的に分析した結果、アラビア語学習の契機、文化興味、学習結果の間に、興味深い関係が認められた。たとえば、アラビア語集中講座合宿の受講者における学習の契機に学習結果との関係は確認されなかった。一方、アラブ文化への興味は複数の学習結果と肯定的な関係をもつことが確認された。

### (3) アラビア語ティーチングワークショップおよび海外調査

本研究期間中に3回のアラビア語ティーチングワークショップを開催した。いずれも世界のアラビア語教育の最先端にいるアラビア語ネイティブ・スピーカー講師を招聘して実施の結果、日本でアラビア語教育に携わるアラブ人および日本人教師・研究者にとって極めて有益な場となった。さまざまなティーチング手法を学んだだけでなく、実際にアクティビティを体験したことで、参加者の日々のアラビア語授業にそれらを生かしていただけるものと期待する。

2015年度はアラビア語ティーチングワークショップを、講師として米ジョージタウン大学所属でエジプト出身のアラビア語教育研究者カーシム・ワフバ氏を迎え、アラビア語集中講座合宿の2日前に京都ノートルダム女子大学で実施した。ワークショップの内容は、第1部が講義「アメリカおよびエジプトの大学におけるアラビア語教育の現状と課題」、第2部がアラビア語教育の実践例紹介とともにコミュニケーション力の育成やモチベーション向上についてであった。英語とアラビア語で行われ、参加者からは、他のアラビア語教育者と意見交換でき、自分のティーチングについて考える貴重な機会を得たというようなフィードバックがあった。ほとんどの参加者は大学でアラビア語教育に携わっている13名で、北海道や関東から来られた方もあり、このワークショップへの興味の高さが感じられた。

2017年度はエジプト出身のカタール大学アビール・ハイダル講師を招き、東京外国語大学本郷サテライトで実施した。内容は学習者の力を引き出す秘訣とともに、アメリカ、エジプト、カタールなどで現在用いられている最新のティーチング手法の紹介であった。ワークショップの使用言語はアラビア語で、国内でアラビア語を教える方や将来アラビア語教育に携わりたいと希望する方など約20名の参加者を得た。ゲームやアクティビティを用いた学生の参加度と学習意欲を刺激するテクニックを実際に体験することで、実りあるアラビア語教育実践の学びの場となった。

2018年度は東京外国語大学本郷サテライトで実施し、レバノンのアメリカン大学ベイルート校教授のマフムード・バタル氏とテキサス大学オースティン校准教授のクリスティン・ブラスタド氏を講師として招いた。お二人は世界で使用されているアラビア語教科書『アルキターブ』シリーズの著者でもある。講師2人のエネルギーあふれるティーチングの手法によって、語彙の

増加、リーディング、コミュニカティブな文法の応用などを学び、日本で教えているアラビア語教育者にとって有益なワークショップとなった。使用言語はアラビア語であった。国内でアラビア語教育に関わるアラブ人と日本人あわせて21名の参加を得た。

#### (4) 海外調査

海外調査については、中国、韓国、フランス、アメリカ、モロッコ、サウジアラビアなどに赴き、アラビア語教育機関の訪問や現地で開催された学会への参加を行った。訪問先ではアラビア語の授業見学、アラビア語専攻の教員や学生と面談し、各国におけるアラビア語教育について知見を得た。学会では研究発表を行い、アラビア語教育に関わる、さまざまな国籍の研究者からの有益なフィードバックによって、研究の方向性を調整しながら、効率的に進めることができた。

#### (5) 例文で学ぶアラビア語単語集の刊行

アラビア語集中講座合宿のために作成したアラビア語単語・例文集の拡充を行い、引き受けてくれる出版社を探した結果、大修館書店より2019年夏に刊行予定となった。アラビア語学習者にとって語彙力、表現力、コミュニケーション力をつける教材が増えることで、学習者がさらにやる気を高め、アラビア語学習を促進していったほしいと考える。

### 5. 主な発表論文等

#### [雑誌論文](計7件)

Akiko M. Sumi and Katsunori Sumi, The Learning Effects of an Arabic Short-term Intensive Camp: An Examination of the Satisfaction of Three Basic Psychological Needs Based on the Self-Determination Theory, *Global Culture Review* 査読あり、10-1、2019、pp.1-21

Akiko M. Sumi, Arabic Teaching and Learning in China and Japan, *Asian Research Trends New Series* 査読なし、11、2017、pp.29-58

Akiko M. Sumi and Katsunori Sumi, Interest in Arabic Culture among Arabic Language Students in Japanese Universities 『日本中東学会年報』 査読あり、31-2、2016、pp.151-182

Katsunori Sumi and Akiko M. Sumi, Orientations among Japanese University Students Learning Arabic 『日本中東学会年報』 査読あり、31-2、2016、pp.115-150

鷲見克典、ウェルビーイングに及ぼされる学習動機づけの効果：大学生を対象とした自己決定理論からの検討 『教育医学』 査読あり、60、3、2015、pp.153-161

Katsunori Sumi and Akiko M. Sumi, Development of the Interest in Arabic Culture Scale (IACS): A Measure of Interest in Arabic Culture for Students Learning Arabic in Japanese Universities, *Journal of Psychology and Psychotherapy* 査読あり、5(3)、2015、pp.1-4

DOI: 10.4172/2161-0487.1000180

鷲見克典、学習動機づけが心理的適応に及ぼす効果に関する予測的研究：自己決定理論に依拠した検討 『教育医学』 査読あり、60、2、2014、pp.125-134

#### [学会発表](計8件)

鷲見朗子・鷲見克典、自己決定理論に基づくアラビア語学習動機づけ：日本の大学におけるアラビア語専攻、非アラビア語外国語専攻、非外国語専攻学生の比較、日本中東学会第35回年次大会、秋田大学手形キャンパス(秋田県・秋田市)、2019年05月12日

Akiko M. Sumi and Katsunori Sumi, The Learning Effects of an Arabic Short-term Intensive Camp: An Examination of the Satisfaction of Three Basic Psychological Needs Based on the Self-Determination Theory, *Korean Association of Middle East Studies International Conference (国際学会)* Hankuk University (Seoul, Korea) 2018年10月14日

鷲見朗子・鷲見克典、自己決定理論に基づくアラビア語学習動機づけ：日本の大学におけるアラビア語専攻、非アラビア語外国語専攻、非外国語専攻学生の比較、日本中東学会第34回年次大会、上智大学四谷キャンパス(東京都)、2018年05月13日

鷲見朗子・鷲見克典、アラビア語集中講座合宿：アラビア語学習の動機づけ向上を目指した講座の概要と効果、日本中東学会第33回年次大会、九州大学(福岡県・福岡市)、2017年5月14日

Akiko M. Sumi and Katsunori Sumi, Orientations for Learning Arabic among Arabic Major Students in a Japanese University: The Influences of Demographic Factors *Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology TJASSST2015 (国際学会)*、筑波大学(茨城県・つくば市)、2016年02月24日

鷲見朗子、日本におけるアラビア語教育機関とその学習者、第34回関西アラブ研究会、大阪大学箕面キャンパス(大阪府・箕面市)、2015年10月25日

鷲見朗子・鷲見克典、アラビア語専攻学生の学習動機づけと学習関連結果との関係：自己決定理論に基づく検討、日本中東学会第31回年次大会、同志社大学(京都府・京都市)、2015年5月17日

鷲見朗子・鷲見克典、日本の大学におけるアラビア語学習者の動機づけと学習関連結果、日本中東学会第30回年次大会、東京国際大学(埼玉県・川越市)、2014年5月11日

#### [図書](計2件)

鷺見朗子編著、依田純和・福田義昭・竹田敏之・富永正人著『例文で学ぶ アラビア語単語集』大修館書店 2019 (印刷中) 総ページ ii+224

Kassem M. Wahba, Liz England, Zeinab A. Taha Eds., Akiko M. Sumi and Katsunori Sumiほか執筆 Routledge『Handbook for Arabic Language Teaching Professionals in the 21st Century, Volume II』のうち「3. Teaching and Learning Arabic in Japan」(pp.20-37)を執筆 2018 総ページ433

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://arabic.web.nitech.ac.jp/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：鷺見 克典

ローマ字氏名：SUMI, Katsunori

所属研究機関名：名古屋工業大学

部局名：工学（系）研究科（研究院）

職名：教授

研究者番号（8桁）：70242906

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。